

科目名	高度ネットワークⅢ						
科目名(英)							
単位数	10単位	時間数	150時間	担当者	久保山 大地		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科高度ネットワーク・セキュリティ専攻4年 情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻アドバンスコース3年						
授業概要	AWSの高度なネットワーキングに関する専門知識を習得する。Cisco機器を使用し、ネットワークのセキュリティの基本機能および基本的な設定方法を身につける。 iCDタスクコード： DV04.4.1、DV04.4.2、DV04.6.1、DV04.11.1、DV04.11.2						
授業形式	講義： ○	演習： △	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				AWSの高度なネットワーキングに関する専門用語を説明でき、各種サービスの基本設定ができる。	
	○	○				Cisco機器のセキュリティに関する基本用語を説明でき、基本設定ができる。	
テキスト・教材 参考図書	要点整理から攻略する『AWS認定 高度なネットワーキング-専門知識』(マイナビ出版)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
		AWS (30コマ)					
	1-5	AWSネットワークの設計と実装					
	6-10	大規模なハイブリッドITネットワークアーキテクチャの設計と実装					
	11-15	アプリケーションサービスとネットワークの連携の構築					
	16-20	AWSタスクのオートメーション					
	21-25	セキュリティとコンプライアンスの設計と実装、ネットワークの管理・最適化・トラブルシューティング					
	26-30	AWSのベストプラクティスに沿った設計と運用				確認テストをすべて80%以上にすること。	
		Cisco (45コマ)					
	1-5	ネットワークデバイスの保護					
	6	AAAの仕組み					
	7-8	AAAをCisco IOSに実装する					
	9-10	ファイヤーウォールの仕組みと実装					
	11-14	IPv4 ACLによるフィルタリング					
	15-16	IPv6 ACLによるフィルタリング					
	17	ゾーンベースファイヤーウォールの実装					
	18	IPSの仕組みと実装					
	19-25	レイヤ2セキュリティ					
	26-32	VPNの仕組みと実装					
	33-40	セキュリティデバイス(ASA)の設定					
41-45	セキュリティデバイスマネージャーを使用したASAの設定				確認テストをすべて80%以上にすること。		
評価方法	(1)複数回確認テストを実施し評価する。(2)受講状況の評価する。(3)定期試験(筆記)を実施し評価する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	確認テスト	○	◎				30%
	受講状況				◎		20%

	定期試験(筆記)		◎				50%
履修上の注意							

科目名	ネットワーク応用B						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	久保山 大地		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科高度ネットワーク・セキュリティ専攻4年 情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻アドバンスコース3年						
授業概要	AnsibleやGitLabといった様々なツールを用いたインフラCI(Continuous Integration、継続的インテグレーション)に関する基本概念を理解し、基本操作を身につける。RPAツールを用いた様々なタスクの自動化手法を身につけ iCDタスクコード : DV04.4.1、DV04.4.2						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				インフラCIの考え方を理解し、説明できる。	
	○	○				インフラ構築の自動化の基本的な操作を行える。	
	○	○				テストの自動化の基本的な操作を行える。	
	○	○				CIパイプラインの基本的な操作を行える。	
	○	○				RPAツールの基本的な操作を行える。	
テキスト・教材 参考図書	インフラCI実践ガイド(翔泳社) Automation Anywhere教材						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション					
	2-4	ITインフラの設計／構築／維持の変化					
	5-7	インフラCIの考え方					
	8,9	演習環境の概要と構築方法					
	10	演習のシナリオ解説					
	11-14	環境構築の自動化					
	15-18	テストの自動化					
	19-22	CIのパイプライン					
	23-26	インフラCIを循環させる仕組み					
	27	Automation Anywhere概要					
	28,29	Automation Anywhere演習					
	30	総復習				確認テストをすべて80%以上にすること。	
評価方法	(1)複数回確認テストを実施し評価する。(2)受講状況の評価する。(3)定期試験(筆記)を実施し評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	確認テスト	○	◎				30%
	受講状況				◎		20%
	定期試験(筆記)		◎				50%
履修上の注意							

科目名	卒業制作B						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	90時間	担当者	久保山 大地		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科高度ネットワーク・セキュリティ専攻4年 情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻アドバンスコース3年						
授業概要	<p>在学中に学んだ知識、技術を生かし、新たなITソリューションの開発および技術研究を行う。社会問題の解決や、最新技術の可能性を探求し、成果物としてシステムを構築する。後期では完成させる。</p> <p>iCDタスクコード： DV04.1.1、DV04.4.1、DV04.4.2、DV04.6.1、DV04.11.1、DV04.11.2、DV08.5.3</p>						
授業形式	講義：	演習：	実習： ○	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				システム開発における「企画」「設計」「構築」「テスト」ができる	
		○		○		グループでの開発に必要な情報共有をスムーズに行うことができる	
		○	○	○		技術的課題に挑み、調査、検証を繰り返し解決することができる	
				○		グループ内での役割を全うし、さらに他のメンバーへのサポートもできる	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-9	イテレーション3					
	10-11	イテレーション3レビュー				予定された制作物を完成させておくこと	
	12-20	イテレーション4					
	21-22	イテレーション4レビュー				予定された制作物を完成させておくこと	
	23-31	イテレーション5					
	32-33	イテレーション5レビュー				予定された制作物を完成させておくこと	
	34-43	イテレーション6					
	43-44	最終成果発表				予定された制作物を完成させておくこと	
評価方法	(1)成果物提出を数回実施する。(2)レビューや成果発表を数回実施する。やむをえない事情を除く不参加の場合は大幅に減点する。(3)受講状況进行评估する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	成果物提出状況		◎		○		50%
	レビュー・成果発表		○	○	◎		30%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	再試験は実施しない。						

科目名	先端IT技術演習Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	志水 徹		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科 高度ITシステム専攻/高度ネットワーク・セキュリティ専攻/電子システム工学専攻 4年・ 情報システム専攻科 システムエンジニア専攻アドバンスコース/ネットワークエンジニア専攻アドバンスコース/電子システムエンジニア専攻アドバンスコース 3年						
授業概要	最新のICT技術の事例としてブロックチェーン技術の概要知識、およびスマートコントラクトの入門的な開発手法について習得を目指す。						
	iCDタスクコード : DV04.6.1						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○		○		ブロックチェーン技術の概要を説明することができる。	
		○		○		スマートコントラクトの入門的な開発手法を説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	麻生情報ビジネス専門学校 ブロックチェーン概論/ブロックチェーン開発入門						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1-2	ブロックチェーンの概要・ブロックチェーンと仮想通貨					
	3-4	ブロックチェーンの構成要素・ブロックチェーンを支える暗号技術			ここまでの課題を提出すること		
	5-8	P2P ネットワーク・マイニングとコンセンサスアルゴリズム			ここまでの課題を提出すること		
	9-12	ブロックチェーンの課題・スマートコントラクトの概要			ここまでの課題を提出すること		
	13-14	スマートコントラクト・Ethereum			ここまでの課題を提出すること		
	15-30	DApps(分散型アプリケーション)・コントラクトの作成			ここまでの課題を提出すること		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)課題・レポートを複数回実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)		◎		○		50%
	課題・レポート		◎		○		30%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	PCを利用する。						

科目名	先端IT技術演習Ⅲ						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	高橋 政博		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科 高度ITシステム専攻/高度ネットワーク・セキュリティ専攻/電子システム工学専攻 4年・ 情報システム専攻科 システムエンジニア専攻アドバンスコース/ネットワークエンジニア専攻アドバンスコース 3年						
授業概要	AI/IoTを中心に、最新のICT技術の調査を行い、どのような事例で利用されているか資料にまとめ発表し共有する。 また、調査した技術を用いたシステムのプロトタイプを構築して、普段の生活の中の課題解決を目指す。						
	iCDタスクコード	SP05.6.1					
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				最新のICT技術を自ら調べることができる	
		○				調査内容のプレゼンテーションを行い、他者に伝えることができる	
		○				調査した技術を用いて、課題解決に向けたシステムが構築できる	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-2	技術調査1					
	3-4	調査資料作成1				可能であれば最新技術が活用されている現場を見学する	
	5-6	調査結果発表1					
	7-8	技術調査2					
	9-10	調査資料作成2				可能であれば最新技術が活用されている現場を見学する	
	11-12	調査結果発表2					
	13-14	技術調査3					
	15-16	調査資料作成3				可能であれば最新技術が活用されている現場を見学する	
	17-18	調査結果発表3					
	19-20	実装技術選定				解決したい日常の課題を検討しておく	
	21-22	プロトタイプ実装1				新規に必要なパーツなどあれば購入しておく。	
	23-24	プロトタイプ実装2					
	25-26	プロトタイプ実装3					
	27-28	プロトタイプ動作検証					
29-30	プロトタイプ振り返り						
評価方法	(1)技術内容を発表資料に整理する。(2)技術内容を発表する。(3)受講状況进行评估する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	成果物		◎				50%
	発表		○				30%
	受講状況				○		20%
履修上の注意	再試験は実施しない。						

科目名	ビジネスマナー						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	徳島 欽子		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科 4年・情報システム専攻科 3年・情報システム科 2年 情報システム科アドバンスコース2年、情報システム専攻科アドバンスコース3年						
授業概要	ビジネスシーンに必要な名刺交換、電話応対などの基本的なマナーだけではなく、冠婚葬祭や食事の仕方などのその場に応じたマナーを学ぶ。 iCDタスクコード 該当なし						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		社会人として相応しいビジネスマナーを理解することができる。	
		○		○		社会人として必要な電話応対ができる。	
		○		○		冠婚葬祭のマナー、日常生活でのマナーを理解し実践できる。	
テキスト・教材 参考図書	入社1年目ビジネスマナーの教科書(プレジデント社・Kinopp)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	訪問のマナー ～好印象を与える自己紹介の仕方				自己紹介ができるよう準備をすること	
	2	～好印象を与える自己紹介の仕方					
	3	基本マナー ～テーブルマナー					
	4	電話応対 ～報連相 ・電話応対の基本・電話の受け方の流れ・かけ方の流れ					
	5	～電話の受け方演習、取次ぎ方演習					
	6	～電話のかけ方の流れ・かけ方演習					
	7	～電話応対テスト				電話応対の流れを確認しておくこと	
	8	～電話応対テスト					
	9	冠婚葬祭 ～慶事のマナー ・贈り物のマナー					
	10	～祝儀不祝儀袋の決まりごと					
	11	～弔事のマナー					
	12	～その他のマナー					
	13	基本マナー ～名刺交換のマナー・席次					
	14	～課題にて復習				全体の復習をしておくこと	
15	～組織と人間関係 ・総復習						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業中に実技試験を実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎		○		55%
	確認テスト	○	○		◎		25%
	受講状況				○		20%
履修上の注意							

科目名	インターネット基礎						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	松嶋 貴志		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科 4年・情報システム専攻科 3年・情報システム科 2年 情報システム科アドバンスコース2年、情報システム専攻科アドバンスコース3年						
授業概要	一般社団法人 全国専門学校情報教育協会主催のインターネット ベーシック ユーザー テスト (iBut) の出題範囲に準拠し、社会人として必要なインターネット社会における知識を統括的に学び、iBut試験合格を目指す。 iCDタスクコード 該当なし						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				iBut試験で合格点を取得する。	
テキスト・教材 参考図書	「iBut」インターネットベーシックユーザーテスト テキスト 一般社団法人 全国専門学校情報教育協会						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	インターネットの基礎1					
	2	インターネットの基礎2			要点をまとめておくこと		
	3	インターネットでの被害1					
	4	インターネットでの被害2			要点をまとめておくこと		
	5	インターネット関連の法規1					
	6	インターネット関連の法規2			要点をまとめておくこと		
	7	インターネット利用者のモラル1					
	8	インターネット利用者のモラル2			要点をまとめておくこと		
	9	インターネットのしくみ1					
	10	インターネットのしくみ2			要点をまとめておくこと		
	11	コンピュータウイルス1					
	12	コンピュータウイルス2			要点をまとめておくこと		
	13	セキュリティ1					
	14	セキュリティ2			要点をまとめておくこと		
15	演習						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。ただし、検定試験を定期試験とみなす。(2)課題またはレポートを数回実施する。(3)受講状況进行评估する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	○				50%
	課題・レポート	◎	○				30%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	再試験は実施しない。PCを利用する。						



科目名	情報処理試験対策秋対策B						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	50時間	担当者	川野 啓祐		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム専攻科3年・情報工学科3,4年・ 情報システム科アドバンスコース2年・情報システム専攻科アドバンスコース2,3年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。 iCDタスクコード 該当なし						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1~12	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。			分からなかった部分の復習をしておくこと。		
	13~25	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。			分からなかった部分の復習をしておくこと。		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。ただし、国家試験を定期試験とみなす。(2)確認テストを数回実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎				60%
	確認テスト	○	◎				20%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	再試験は実施しない						

科目名	情報処理試験対策春対策B						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	24時間	担当者	川野 啓祐・姫野 マリ		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科2年・情報システム専攻科2,3年・情報工学科2,3,4年 情報システム科アドバンスコース1,2年・情報システム専攻科アドバンスコース1,2,3年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。 iCDタスクコード 該当なし						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1~6	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。			分からなかった部分の復習をしておくこと。		
	7-12	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。			分からなかった部分の復習をしておくこと。		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)確認テストを数回実施する。(3)受講状況进行评估する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎				60%
	確認テスト	○	◎				20%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意							